

3. ラークスパーの出芽に適する育苗土（技術）			
[要約]			
<p>粒径 1～3 mm のパーライトあるいはバーミキュライトを基材とした育苗土を用いることによってラークスパーの出芽が促進され、胚軸長のばらつきも小さくなる。</p>			
研究室名	野菜・花研究室	連絡先	0869-55-0277

[背景・ねらい]

ラークスパーの育苗においては、出芽時期が揃わないために生育の揃いが悪くなる場合や出芽率が低いために必要な苗数が得られない場合がしばしばある。そこで、生育揃いのよい苗を安定的に生産するため、出芽に適する育苗土について検討する。

[成果の概要・特徴]

1. インキュベーター内の試験では、粒径 1 mm 以下のパーライトあるいはバーミキュライトを基材とした育苗土より、粒径 1～3 mm ものを基材とした育苗土で出芽揃いがよく、出芽率も高かった（図 1）。
2. 育苗施設内の試験では、慣行育苗土より、粒径 1～3 mm のパーライトあるいはバーミキュライトを基材とした育苗土で出芽揃いがよく、出芽率も高かった（図 2）。
3. 育苗施設内の試験では、慣行育苗土より、粒径 1～3 mm のパーライトあるいはバーミキュライトを基材とした育苗土で胚軸長のばらつきが小さかった（図 3）。

以上の結果、粒径 1～3 mm のパーライトあるいはバーミキュライトを基材とした育苗土を用いることによってラークスパーの出芽が促進され、胚軸長のばらつきも小さくなると考えられる。

[成果の活用面・留意点]

1. 育苗土をピートモス無添加のパーライトとして育成した苗は、根鉢が崩れやすいため、慣行育苗土の 1.5 倍程度の定植時間が必要であった。このため、この育苗土の実用化に当たっては、育苗土の固化などの検討が必要と考えられる。

[具体的データ]

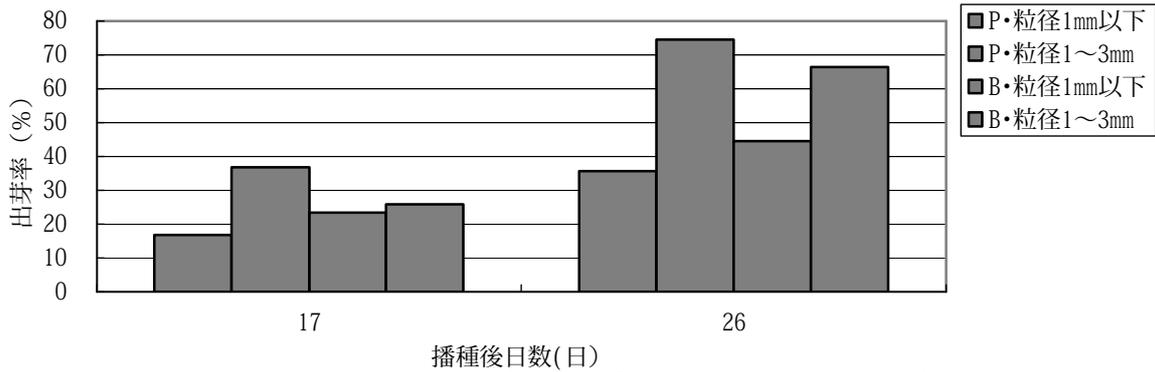


図1 育苗土がラクスポーの出芽率に及ぼす影響（インキュベーター内試験）
注）P：パーライトを基材とした育苗土、B：パーミキュライトを基材とした育苗土、いずれもピートモス無添加、25%添加、50%添加の3種類の育苗土の平均。

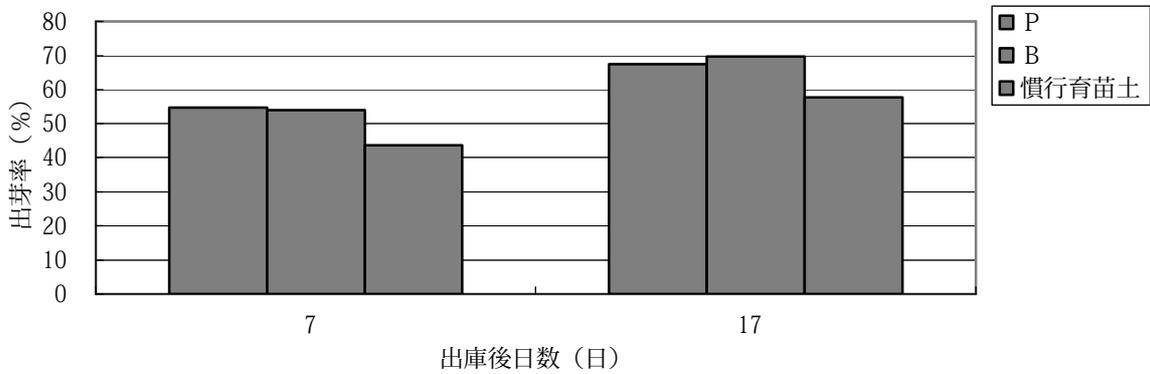


図2 育苗土がラクスポーの出芽率に及ぼす影響（育苗施設内試験）
注）P：粒径1～3mmのパーライトを基材とした育苗土、B：粒径1～3mmのパーミキュライトを基材とした育苗土、いずれもピートモス無添加、25%添加、50%添加の3種類の育苗土の平均。慣行育苗土：S社製培土（商品名：スーパーミックスA）とU社製パーライト（2型）の等量混合土。

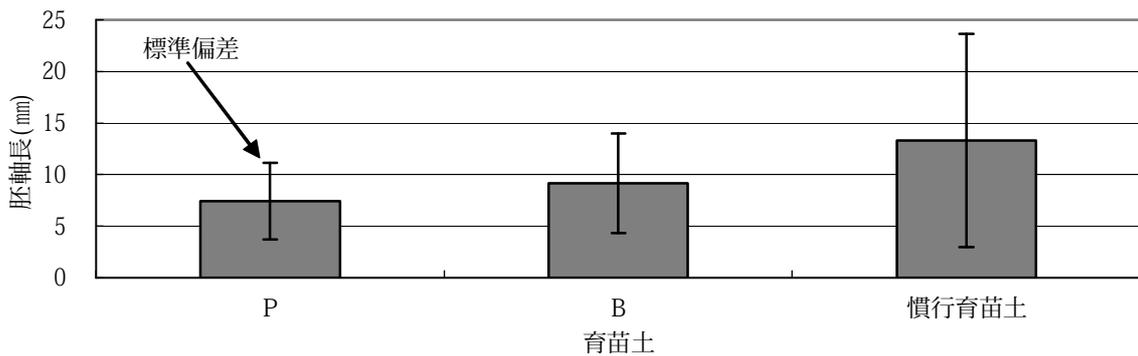


図3 育苗土がラクスポーの苗の胚軸長に及ぼす影響（育苗施設内試験）
注）P、B、慣行育苗土：図2に同じ。

[その他]

試験研究課題・事業名：ラクスポー優良系統の育成と採種・育苗技術の確立
 予算区分：県単
 研究期間：平成14～16年度
 関連情報等：なし